# 日本随筆大成

第三期

15

塩尻 3（巻五十一～巻七十一）＝天野信景

吉川弘文館

日本随筆大成　第三期第十巻
昭和五年十二月卅日発行
編纂者　日本随筆大成編輯部
代表　早川純三郎
発行者　桜井庄吉
発行所　日本随筆大成刊行会

日本随筆大成
〈第三期〉15
昭和五十二年十月三十一日　印刷
昭和五十二年十一月十二日　発行
編　者　日本随筆大成編輯部
発行者　吉川圭三
発行所　株式会社　吉川弘文館
〒113　東京都文京区本郷七丁目二番八号
電話東京八一三―九一五一〈代表〉
振替口座東京〇―二四四番
製　作　株式会社　たんちょう社

# 目　次

塩　尻（巻之五十一～巻之七十一）……一

（解題　北川博邦　小出昌洋）

试读结束：需要全本请在线购买： www.ertongbo

# 目　次

## 巻之五十一　正徳


富貴怕レ見二開花一　三三
近年四民貧究して　三三
十日画二一水一　三四
江文蔚が蟹賦　三四
鹿の角をおとす二種有　三五
そくかくた　三五
筌の字訓　三五
源空勅諡　三五
知恩院御忌　三五
白誉上人円光大師新伝　三六
忠誠の従者　三六
幼少にして亡母を弔ひし事　三六
府下光照院長行会　三七
癸巳正月院御会始　三八
予州松山火災　三八
琉球王使入貢　三八
関東新大納言将軍宣下　三九
大光禅院の桜　三九
正覚寺上人説法　三九
王藻所レ帰之島　三九
咋　四〇
天井　四〇
閑素幽栖　四〇
唐茶贈答の詞　四〇
暮春遊古井庄吟　四〇
三月尽　四一
癸巳三月京師火災　四一
石枕村の稲荷　四一
僧聞谷写経　四一
社毎紙幣を献　四一

内宮月読宮大松樹　四三
天英院殿御上階　四三
新君家継公御元服記　四三
豊前国高良山　四五
古服たすきひれ　四五
尾府東照宮御祭礼　四五
今年立夏遅し　四五
忠吉卿御養母　四六
池田恒利略系　四六
福島掃部介子孫　四七
竹腰氏略系　四七
熱田神饌五六餅　四七
中村長兵衛　四七
忠度十三夜の歌　四七
薫物の制久し　四八
香瓜のかりもり　四八
としみ　四八
蓮生法師三人ある事　四八
千木　堅魚木　四八
艦　畦　四八
我国中世の国制　四九
絵所狩野家略系二図　四九

## 巻之五十二　正徳

冬至の賀　五三
熙朝楽事に　五三
順清公　五四
左門右門之称　五四
埒　埒　五五
眷属　五五
帰命　五五
大元帥法　五五
伝教作之大黒天　五五
黒雲　五五
駿府節分の俗習　五六
有職私記　五六

挙手挂三網羅一　五五
女院崩御二付賀茂祭不レ行俗間夢想の妙薬　五五
医薬剤の多寡　五七
忘肉抄、體源抄　五七
南楚和尚答書　五七
甚目寺釈迦堂僧形　六〇
吾輩処レ世　六〇
明徳　六〇
無三自是之豪傑一　六〇
酒店壁間詩　六〇
種樹之法　六〇
野間庄大御堂　六〇
兵庫湊川宝勝寺記　六〇
明太祖善悪報応理言　六〇
人家子孫累々として　六〇
熱田太宮司紫袍を著す　六一
後魏の景明年中　六一
范文正公一書生が為　六二
宋の楊偕　六二
頃日銭貴かりし事　六三
文昭殿御実母　六三
清揚院殿卅三回勅会式図　六三
亡霊に水手向る事　六九
天竺へ渡いと艱難成し事　六九
千里きれといふ織物　七〇
瘍医　七〇
首如三飛蓬一　七〇
いぶき山しめぢが原の艾　七〇
五月五日百種草を采る事　七〇
猿猴の月故事　七〇
いたちの火柱　七〇
島国狐なし　七一
世尊寺の本尊　七一
唐玄宗時官女多数　七一
和三峰上人示一上三綺筵二一律　七一
桜井の里の歌　七四
国の枕詞　七四

南尾略図　七四　礼儀類典　七四

巻之五十三　正徳

太田道灌辞世の事　七五
癸巳小田原高浪　七五
尾府堀川へ鰹魚来りし事　七六
蚊柱　七六
雪隠の称　七六
高麗王は日本の犬　七六
五枝松　七六
甲午三月日色如レ血　七六
衣笠大臣木曾梯の歌　七六
玉川和歌に詠るは　七七
武蔵の名処　七七
熊谷蓮生の歌　七八
伊勢の小町塚　七八
尾州石枕の里　七八
定家卿幼時の歌　七八
熊野浦のからすみ　七九

和田峠の星くそ　七九
尾州大国霊神社の祭　七九
畜生三種あり　八〇
堀河夜討の年月　八〇
親鸞の歌　八〇
滝川家宸筆の色紙　八〇
いなのめ　しのゝめ　八一
望火楼　八一
たこぶね　八一
時頼道灌のうた　八一
楓　八二
諸社神官の称呼　八二
和州招提寺　八二
牛頭天王梵語　八二
諸天明王　八三
温泉涌出地祭レ神　八三

菅三品奏状　八三
傀儡俊頼の歌を諷ふ事　八三
栟櫚島　八四
日向国宇土の岩屋　八四
智鋒師新板二書　八四
昔皇都大学寮　八四
康凞帝永世の祝　八五
賈誼上疏云天下大器　八五
五菓王五穀　八五
二根ある馬　八五
謝仙火　八五
開元銭新旧　八五
漢書食貨志　八六
巫蠱左道の邪術　八六
宋凞寧中甘露降し事　八六
水仙花　八七
当麻の変相　八七
願生浄土七祖　八七
蓮池四ヶ本寺　八八
料簡　八八
堀川院崩御　八八
文屋康秀が歌　八九
清水池　八九
なぎなた　八九
志水氏　八九
弓削氏　八九
西山義九所壇林　八九
関東壇林十八所　八九
多越善導流義　九〇
朝臣　九〇
信長桶迫間衝入の路　九〇
珠数の梵語　九〇
今世の駕籠　九〇
安東頼時の系図　九〇
神君御花押　九一
仏者本尊を立て拝す　九一
荒神供　九二
摩利支天の像の事　九二


试读结束：需要全本请在线购买： www.ertongbo

不空羂索観音　九二
馬頭観音　九三
千手観音　九三
地蔵右手錫杖を執　九三
大黒天　九三
弁才天　九三

## 巻之五十四　正徳

孔顔の楽　九五
老て少ヶ亀　九五
鶴亀　九五
狐鼠の進退　九六
芸を衒ひて利禄を求　九六
銭を料足と呼　九六
講の字義　九六
異を好み奇を衒ふ　九六
園城寺長吏山門座主御附弟とならせ給ふ事　九七
大和入道見仏が歌　九七
三井道顕僧都　九七
尾府下正月初三後の心竹　九七
初春望夜燈　九八
兼好が書る見苦しき物　九八
殯葬　九九
知恩院御忌　九九
長良兼良の訓　一〇〇
普広院将軍童の時　一〇〇
郁離子　一〇〇
菅公自書の太政官府　一〇〇
百十番の謡の注　一〇〇
周易の訓　一〇一
卜部家神籬の伝　一〇一
瓢より駒を出す絵　一〇一
吸酢の図の事　一〇一
雪中芭蕉　一〇一
仏者右膝着地　一〇一

景清が伯父の僧　一〇一
大燈国師　一〇二
猿ぐつわ　一〇二
鵠　一〇二
樺来唇　一〇二
椀脱丘　驢年犬日　一〇二
水中塩味　一〇二
細川頼之退隠の詩　一〇二
幽岩律師　一〇三
万国掌菓図　一〇三
いらたかの数珠　一〇三
比叡山の如法経　一〇四
寺院に旛かくる事　一〇四
不動明王四臂の像　一〇四
日蓮宗に安ずる愛染明王　一〇四
地下二位三位叙するともなるみかたの歌　一〇五
東南院の宮　一〇五
我国印本の紙　一〇六
京より諸家へ召抱らるゝ妾　一〇六
断邪顕正論破文　一〇六
とぶ火　一〇七
信庸朝臣の歌　一〇七
仕者入二治朝一　一〇八
欲レ貴之心　一〇八
寒士の妻　一〇八
尺蚓穿レ堤　一〇九
熱田の菩薩号　一〇九
同本異訳の経　一〇九
世界　一〇九
娑婆　一〇九
衲衣　一〇九
大原三寂　一〇九
女性小性御料人等の称　一一〇
常徳院将軍の女　一一〇
人身十神　一一〇
真言五部秘経　一一〇
三大部　天台五小部　一一〇

ほとけの訓　二一
沙門桑門　二一
書物を本といふ事　二一
枳棋　二一
馬　駒　騑　駣　二一
寒国の馬　二一
馬の種類　二一
豆州にて殺す異獣　二一

## 巻之五十五　正徳

後漢魏桓　二五
内学外学　二五
漢儒注書　二五
因縁の字義　二五
回　声　妬　二六
落草折合　二六
富地の老鴉　二六
榎室連　二六
遠州木坂大楠樹　二六
彼岸中日に読し歌　二六
春秋の彼岸会　二六
天竺暦　阿蘭陀暦　二七
春の比母のおもひに有て　二七
庭の緑桜咲そめて　二七
蓮社伝　二七
日本浄宗蓮社号伝　二八
泉州堺旭蓮社　二八
大樹家蓮社号　二九
先吾綱誠公法諱　二九
某寺殿某院殿と書事　三〇
戒名道号　三〇
二字の法名　三一
往古廷臣功ありて死すれば　三一
我国古へ姓に付たる戸（カバネ）　三三
天皇我詔旨良万止の訓　三三
儒典は菅江清中の訓点　三三

瑞雲山釈迦堂御身拭　一三三
熊野へ詣る人に送る歌　一三三
葉栗曼荼羅寺参詣の記　一三三
竜淵上人の説法　一三六
はやく友なひし人に逢し事　一三八
或禅院に遊びし時の詩　一三八
よろづなきに事かけぬ様　一三八
よはめの霊怪　一三八
真心派盲相宗と邪法の事　一三八
極楽教寺の鐘鋳　一三八
銀座の者驕奢遠島の事　一三九
甲午金銀改鋳　一三〇
黒田宣政隠居の事　一三〇
淑室藤孺人小祥忌　一三〇
友人端午の詩　一三三
茶蘭　一三三
仙人条　一三三
甲午五月九日の野分　一三三
霊まつる比雲時々立覆ひ　盂蘭盆会排牓　一三三
娘におくれし人を弔ふ歌　一三三
盆経に百味五果仏に供す　一三三
正徳甲午米麦高価　一三三
琉球の真眼紙　一三三
甲午八月八日の暴風　一三四

## 巻之五十六　正徳

程伊川曰古時公卿大夫　一三七
元首の明らかなる　一三七
漢董賢佞倖の事　一三八
日光山春暁の詩、韓使の和　一三八
日光名勝記、山城名勝志　一三九
大光禅院の糸桜　一三九
家のさくら池に散かゝる比　一三九
弥生十日人の月忌初　一三九
晋咸和八年制天郊　一四〇
天仙鬼神変化を信じて　一四〇

増上寺深誉上人勅賜号　一四〇
異邦道教盛んなる事　一四一
南京北宗の分ち有事　一四一
道書の名　一四一
老子を教主とする事　一四三
太上老君　一四三
今世学校の政なければ　一四三
受諸飲食　一四三
歳荒民窮し　一四三
堂上樋口家　一四四
朝鮮国事記　一四四
主馬盛久　一四六
盂蘭盆会の供物荷葉を用　一四六
永観律師の六字名号　一四六
かりもり　一四七
四字経　一四七
渡唐天神　一四七
義教真阿上人への歌　一四七
山城の名処書し書を　一四八
后妃夫人　一四八
士鵶　士黽　山蛤　一四八
餡飩　一四八
鉄炮に中りし人の療治　一四八
六弓八矢　一四八
玉葉集弓のうた　一四八
花見遺懐　一四九
落花の歌並返し　一四九
磯辺某旅路祓の祝詞　一四九
熱田の御本地　一五〇
乙未春世中不敷　一五〇
夷に題せし詩　一五一
関原与市討れし処　一五一
神祭肉を供する弁　一五一
忌火の問に答ふる言　一五一
辻祭　一五二
牛頭天王に疱瘡平癒を祈る　一五二
祇園法楽の歌　一五三

## 巻之五十七　正徳


隠元禅師東来の後　一五五
源氏物語総論　一五六
乙未三月尽の詩歌　一五七
霞月つゝじやまぶきの歌　一五七
伊勢山崎等の離宮　一五七
鬼子母神の像の事　一五七
清朝仏書蔵経の数　一五七
仏生会の吟　先考諱薦香偈　一五七
ゑの木　一五七
蔡吉尼　一五七
年神　一五七
生島氏の尚歯会　一五七
宇治の茶　一五七
平等院の阿弥陀堂　一五七
桟敷　一五七
帝都の寺院山号鐘なし　一五八
或人歌の事尋よるべきとて　一六〇
伊賀へ行人を送るうた　一六〇
播州峯相記抜抄　同広峰天王の事　一六一
伊勢八幡熱田春日の宮司姓氏　一六二
熱田の神宝虫払の事　一六二
祇園三所の本地　一六三
鬼宦之大帝　一六四
丹羽郡大県宮神主家　一六四
春日四所法相宗本地伝　一六四
長崎森崎権現　一六四
竹王祠　一六四
三州伊賀村八幡宮　三州松平郷六所明神　一六五
同州一ノ宮砥鹿神主　一六五
同州下和田村尾犬頭の神社　一六五
多武峯神像破裂　一六五
熱田八剣宮　一六五
津島社内弥五郎の社　一六六
三種の神宝の事　一六六


试读结束：需要全本请在线购买： www.ertongbo